

## 分類するということ

三 木 幸一郎

北九州市立門司病院 内科部長

専門課程小委員会 委員

第32回日本診療録管理学会が福井で開催されましたが、そこでの特別講演は「恐竜」についてのものでした（そう、ティラノサウルスだとかトリケラトプスだとかいうあの恐竜ですよ）。恐竜は爬虫類ではなく哺乳類だったのでは？というスリリングな話に、参加者は思わず引き込まれていました。

さて、考えてみるとこれは恐竜を「爬虫類」でなく「哺乳類」に分類すべきか、という話であり、分類する根拠はなにか、ということになります（恐竜をどこに分類するかについて興味のある方は自分で調べてみて下さい）。

恐竜はさておいて、ひとは昔から様々なものを区別し仕分けしてきました。無意識に分類していたわけですが、今見ると誤り(?)だったものもあります。漢字の部首で推測すると鯨は魚の仲間、蝸や蛇や蛙は虫と見なされていたと思われま。そこでは直感やみてくれが分類の根拠だったでしょう。現在では、地上で一番数の多い動物である昆虫は節足動物のなかに含まれ、さらに細かく分類されるわけですが、その分類はきちんとした生物学的根拠にもとづいて行われます。もし、新たな生物が発見されたとしたら、これまでに知られた生物のどれに近いかを吟味して分類上の位置が決められます。もちろん既存の生物についても、研究の進歩で扱いや分類上の位置づけが変わることが稀ではありません。

診療情報管理の世界を眺めてみましょう。

医療機関においてデータを集め情報としてまとめるとき、国際疾病分類（ICD-10）に限らず、必ず分類するという作業が発生します。性別で分類、日数を区切って長期入院患者を集計するなど、一定の決まり・法則に基づいて仕分けする作業はたくさんあります。

分類法を勉強中の皆さんは、コーディングルールに従って所定のコードにたどり着きながら「なんでこの病気がここに入るの?」とか「どうしてこの場合は除外されるんだ?」と疑問が次々わいてくるでしょう。その多くにはそれなりの歴史や根拠、理由があるのですが、矛盾を抱えているのも事実です。

今年2003年版ICD-10の日本語版が発行されましたが、分類体系というものはいつまでたっても完璧にはなりません。これからは診療情報管理士も単に末端の医療現場でICDを利用するだけでなく、その問題点の改善に貢献することが求められてきます。ルールを覚えコーディング能力を磨くと同時に、ICD-10の分類の根拠や本質に思いをはせていただければと思います。